第三十六回本郷ふじやま公園古民家歴史部会歴史探訪 「よこはま古民家」とその周辺歴史散策 平成21年2月5日(木)(集合;市営地下鉄線「下飯田駅」改札口9時50分・解散14時頃。

「V」天王森泉公園・古民家ゾーン(休日;第4火曜日,祝日の場合は翌日,12/29~1/3)

指定管理者;天王森泉公園運営委員会

住所; 泉区和泉町300・電話; 045-804-5133・FAX; 同左)

最寄り駅;市営地下鉄線「下飯田駅」徒歩25分・戸塚駅西口バス→バス停「ドリームハイツ」(3 5分230円)徒歩15分・大船駅バス→バス停「ドリームランド」(約25分)乗継→バス停「ドリームハイツ」(約5分)

特徴;旧製糸場・光の競演ゲンジボタル、広場の奥から湧き水も流れる里山。

行程;「下飯田駅」→四ツ谷石仏→四ツ谷湧き水→第六天神社→密蔵院→下和泉鯖神社→天王森泉公園・古民家ゾーン(昼食)→バス停「ドリームハイツ」→戸塚又は大船駅(ドリームランドバス停乗継)。

### 散策場所と内容

#### 1・四ツ谷の石仏

和泉川に架かる草木橋付近は弥生後期の草木遺跡。三叉路に立つ石仏;宝筐印塔残欠(不明)・道祖神塔(明治4年)・地蔵庚申塔(寛文10年=1670)・出羽三山供養塔(文化2年=1805)・石祠(不明)など。

### 2・四ツ谷湧水

泉区は地下水脈に恵まれ、湧き水の数は市内有数。四ツ谷湧水は、和泉川の下流、中和泉から和 泉にかかる辺りの一段高くなっている畑のくぼみにあり、にじみ出るように水が湧いている。最近、湧き 水周辺が整備され、区の花「あやめ」も植えられた。

3・密蔵院(高野山真言宗・本尊不動明王願行作とされる・学童疎開40名受入昭和19年8月24日) 開山は祐海法印(天文14年=1545没)。石段の下には文政4年(1821)建立の木食観正碑・ 貞和3年(1347)銘、板碑1其・ハクモクレンは有名(3月彼岸頃)。

# 4・第六天神社(下和泉上分の鎮守・鎌倉古道沿・天神第6代の面足能命,惶根が能命の2柱)・酒湧池孝子伝説

古い歴史を持つ神社であるが祀り時期不明。祭神は面足能命(キモタル/ミコト)・惶根能命(カシコネ/ミコト)
この神社の東側に酒涌池または弁天池と呼ばれる泉があり、島の中に小祠が祀られている。この泉の孝伝説;昔、池の近くに孝行息子がいて、池の水を樽に汲み取り父に飲ませていた。ある日、里人が樽を下げてきた孝子(コウシ)に会った。何処から酒を買って来たのかと尋ねると孝行息子は、この山奥の池の水がうまい酒であるので、汲み取って父に飲ませているという。里人は大いに喜んで、大樽に汲み取って金儲けをしようとしたところ、その酒はたちまち、只の水になったと言う。里人が孝行息子に会ったという橋を、今でも樽見橋と呼んでいる。

### 5・下和泉鯖神社(祭神左馬頭源満仲)

慶長年間(1596~1615)当地の郷士清水・鈴木両氏が勧請という。元禄2年(1689)に 氏子の寄進による、社殿修復の棟札が残されている。社殿の下あたりに、かつての清水製糸場があり、工 場が使用していた、崩れかかった横井戸や水路が境内から望める。

# 6・天王森泉館・天王森公園(平成9年11月開園・湧水の森・くわくわ森・見晴らしの丘・要予約,措 定場所飲食可)

天王森館を中心に昔ながらの原風景を残した緑豊かな、ホタルやワサビを育 (ハヴク) む豊富な湧き水のある公園。天王森泉館は旧清水製糸場本館。明治期に建てられた市内に残る唯一の製糸関連の遺構で、和泉・飯田・阿久和地区が一大製糸産業地であることを偲ばせます。平成10年市指定歴史的建造物に選ばれた。

## (1) 天皇森泉館(横浜市認定史的建造物・旧清水製糸場本館・当時の資本家層の住宅の典型を示す)

この建物は、明治44年(1911)5月に清水一三氏によって興された清水紙場の本館として建設された。その後、昭和6年頃に本館の左側半分が約500m北から現在の敷地に移設され、個人住宅として利用された。平成9年に公園整備に際して、製糸場本館当時の姿を再現し、「天王森泉館」として名付け拠点設置として活用している。

清水製糸場は、大正7年には釜数128を誇り、神奈川県下45社中5番目の規模泉の製糸場でした。泉川沿いには豊富な湧水を活して20に上る製糸場が営まれ、中和田村(現泉区)には市内最古で規模も大きい持田製糸場をはじめ8社があった。しかし、大正時代にピークを迎えた製紙産業は関東大震災や大恐慌(1929)で打撃を受け、ナイロンの開発も重なりその勢いは急速に衰えた。玄関を入った所にある帳場が商いの場として特徴的。当時はこの様な本二階建てが好まれ、二階は接客の場として使われた三ツ間続きの座敷があり、総掃き出しの開放的な作りです。晴れた日には富士山も望めます。

